

寄稿

巖谷小波日記 翻刻と注釈

——明治三十七年（十月、十二月）——

小波日記研究会

《まえがき》

ここに翻刻する巖谷小波の資料は、明治三十七年「当用日記」の十月一日から十二月三十一日までである。翻刻にあたっては、従来と同様、原則として削除された箇所は省き、削除されていない文字はすべて翻刻するように努めた。特記すべき点があれば、各日の末尾に注で示した。

平成二十九年十一月十一日

猪狩 友一
木村八重子
竹田 修
中川理恵子
(五十音順)

《本文》

明治三十七年 当用日記

十月一日（土）*晴

八時後出勤 日露戦史艸初
午後四時本郷座見物 竹柴、水口、徳田同行
狂言 フランチスカ、高野聖、
高田、藤沢、佐藤、河合

〔出〕本郷 1, 70

〔注〕*日露戦史艸初：『少年日露戦史第五編（得利寺の巻）』を起筆したか。「初」の字はやや小さく記されている。

十月二日（日）曇夜雨

午前 遠山揆山来 又 国峰、大岡竜男来
午後大岡と青山宅に赴き後 墓地の
紅葉墓碑建設を見る 石橋二會す
四時帰途年峰及辻氏による
夜加藤来
須田紹介 実相寺僧男原稿持来

〔注〕*男原稿：この部分、文字がかすれているため判読困難。

十月三日（月）曇

八時後出勤 日露戦史稿
四時帰 桜井義肇氏来言文一致会の件
食後 東京座魚十に赴く 水口、徳田、
竹柴らと共に 中村芝翫に會見 マリヤ、
スチュアルト及其他 新脚本の件 十時帰

〔注〕*後：この文字は右欄外に記されている。 *桜井義肇：明治三十七年四月二十九日の記参照。 *言文一致会：明治三十七年四月三日の記参照。 *魚十：東京座の芝居茶屋。 *中村芝翫：五世（一八六五〜一九四〇）。五世中村歌右衛門の前名。明治後期から昭和初期にかけての代表的な女方。新作にも意欲的で、明治三十七年三月には、坪内逍遙『桐一葉』初演の際に淀君をつとめ、同年十月には、竹柴晋吉脚色『不如帰』の浪子を演じた。 *マリヤ、スチュアルト：シラーの戯曲『メアリー・スチュアルト』。

十月四日（火）曇

九時前福田来 後出勤
戦史艸

四時帰途 三井により大嶋羽織注文
夜在宿 23.50

〔出〕三井に羽織足し 8、50

十月五日(水) 曇雨

八時後出勤 日露戦史第五脱稿

一時帰 直に執筆 少年臨時羊の

天下脱稿

篠山来 又竹柴来 脚本の件

〔注〕*日露戦史第五脱稿：『少年日露戦史第五編(得利寺の巻)』は、明治三十七年十月、博文館より刊行された。

十月六日(木) 晴

朝廬を訪ひ それより 早稲田出勤

三時半帰 永富来

夜木曜會 押、太、千、西、春生ら

十月七日(金) 陰晴

八時半出勤 為太陽 小説艸 竹柴来

午後三時後 訪桂舟 尾崎未亡人居合

夕食後 元園町父上と囲碁、兄上居合

母上は又々瘧の気味也

〔一行あき〕

文房堂にて画具其他求

〔入〕戦史第五 50、00

〔出〕文房堂 6、40

勇へ 30、00

〔注〕*陰晴：「陰」の字は上部欄外にある。 *為太陽 小説艸：「小説」が正しければ、「太陽」第十卷第十六号(明治三十七年十二月一日)掲載の『海軍服』か。但し、次の日の記に「太陽脚本脱稿」とあるから、ここは「小説」ではなく「脚本」か。

十月八日(土) 晴

九時出勤 太陽脚本脱稿

食後 二時 竹芝館 秋聲會十週年會に臨む

會者三十六名 八時帰

〔出〕秋聲會 1、20

〔注〕*太陽脚本：「太陽」第十卷第十四号(明治三十七年十一月一日)掲載の喜劇『貯蓄債券』か。

十月九日(日) 曇夜雨

自本日 青山北町五ノ六八に移る

七時半出で 岩佐、大久保、栗津、田中、北村に告別 青山に向ふ

十二時荷物着 生田、冬生、竹貫、木村、きん、

西岡太田 西村、永富ら手傳ひ

廬、加藤来訪 盆栽と贈 辻氏筒井

夫人ら来

〔出〕買物 1、50

十月十日(月) 雨

九時出勤

四時帰 黒田母来

夜 風雨

〔入〕中学 15、00

十月十一日(火) 快晴

朝年峰来面持参

九時出勤

午後四時後帰

夕食後 勇、三一と近所散歩

十月十二日(水) 曇

九時出勤 途父上を訪ひ又桂舟ヲ訪ふ
午後四時半 石橋、廬と加藤の大森宅に向ふ
其前銀座にて火鉢求む
夜食後本門寺會式を見る、九時五十五分
の汽車にて帰る

十月十三日(木) 雨

午前在宿、得雅来元園町祝品火鉢、吸物椀
持参
十二時 早稲田出勤
夜木曜會 画葉書東京名所

十月十四日(金) 曇

九時出勤 其前森無黄来画葉書帖一、貸
午後四時竹貫、木村、武田を伴ひ帰る
少年改良相談 夕食後 八時皆々去る

十月十五日(土) 曇

九時出勤
午後二時出で 一寸東京火災保険に伊臣
及長松ニ會し 黒井屋にて膳求め
丸善にて買物 婦人教育會に赴く
大村氏講話一寸聞き四時 父上ヲ訪ふ
食後 八時帰 勢多斎井

(出) 膳 10、10

丸善 4、00

兄公其他居合

十月十六日(日) 曇

午前來訪 渡邊修二郎 永井天橋

古新居 荷 父上来駕

午後一時 麴町小學 女子校友會に
赴く 口演余興「化の皮」其他
後園遊會
四時加藤廬来揃共に紅葉館行
九時帰

(出) 紅葉館二度分 26、50

十月十七日(月) 曇雨

午前來訪 阿部三四(独乙留学) 高橋立吉(原稿持参)
午後一時都築氏を訪不在 竹貫ヲ訪ひ後に
柳原伯を訪ひ四時帰
夜千葉来る 民友社不平の件

十月十八日(火) 雨

朝三一を青山幼稚園ニ伴ふ 自本日入園
出勤 熊娘出版
午後四時帰途元園町立よる 食後七時帰る
夜生田来る

十月十九日(水) 晴

電車にて出勤
午後四時帰 途斬髪 又一木道具屋にて
碁盤を求む
夜 演藝研究會朗読會、東儀、水口、徳田
正宗、竹柴、土肥及生田 十時帰

(出) 碁盤 6、50

十月二十日(木) 曇

本日休校(記念日)

朝北村氏けいこ、後辻氏を誘ひ共に帰に中食
両上来會の筈断らる 即ち送膳部

午後 両上来駕 次で日下部姉上も来らる

夜木曜會 作物

【注】*記念日：早稲田大学の創立記念日。

十月二十一日(金) 朝雨 曇

九時出勤

午後五時 宝亭菜府會出席、嘉納飯島

氏ら懐旧談あり 八時帰途北村氏

打合會 九時半帰

【出】菜府會 1、50

【注】*朝雨：欄外にあり。後から書き足したか。

十月二十二日(土) 曇夜雨

九時出勤

午後二時 桂舟を訪 四時皆香園白人會

に臨む 九時半帰宅

【出】白人會 1、30

十月二十三日(日) 曇

午前文科生鈴木善太郎来 又工科學生

大塚泰来 日下部兄公 来大岡竜男

午後一時より北村氏結婚披露謡曲會

に臨む 艸子洗シテ、夕宴後一寸元

園町により 八時後帰

【注】*鈴木善太郎：劇作家、翻訳家(一八八三～一九五〇)。

十月二十四日(月) 晴

欠勤 終日二六俳句選

午後四時野口竹次郎来 女子文壇の件

五時福田来 次で石橋来 夕食

勢多来 九時後皆去る

十月二十五日(火) 曇

九時出勤 途に墓地茶屋竹中により三十日の件注文

午後四時莊司髭剃 五時深川 洪沢篤二

氏に招かる 八十島、伊藤、穂積氏同席

*子息劍舞 貞水従軍談等

十一時後帰

【注】*洪沢篤二：実業家(一八七二～一九三三)。洪沢栄一の長男。*子

息：洪沢篤二の長男敬三か。洪沢敬三は、実業家・民俗学者(一八九

六～一九六三)。

十月二十六日(水) 晴夜雨

朝 向井福次郎(大放の子) 来談 正誤の件

出勤

午後三時 文芳堂玉川堂買物 桂舟によりそれより

大橋氏により夫人とまづ語る 桂氏結婚の件後主人帰

夕食後帰宅 選句

【出】買物 2、00

十月二十七日(木) 曇晴

午前黒田来、綱島夫人来

一正午 早稲田出勤 四時帰

夜木曜會 吉水来海軍出仕ニツキ保証の件

【出】勇へ 5、00

十月二十八日(金) 晴

朝 福田、金港堂石川松溪を伴来
九時後桂舟により 十一時出勤
午後一寸元園町により 帰宅
夜 二六俳句選了 黒田来

【注】*石川松溪：『名家訪問録』（第一集＝明治三十五年六月、第二集＝同年八月、第三集＝翌年七月、金港堂）の著者か（「第二集」は未見）。
「第三集」の緒言によれば、「金港堂発刊の諸雑誌速記部門を担当し、常に名門に出入し」ていたという。

十月二十九日(土) 晴

*朝年峰来
九時出勤 *世伽六十四起艸
午後二時帰
自三時 秋聲會小集 無黄、虚心、望東、竹冷
黄雨、酔月、素竹、米斎、松宇ら
又柳浪来 *十時散

【入】 120,000

稿料 66,000
太、文 女、

【出】 勇へ 120,000

毛布 * 2,400
割

弁当 1,64

【注】*朝年峰来：欄外に記されている。 *世伽六十四：『龍宮の使者（世界お伽噺第六十四編）』は明治三十七年十一月、博文館より刊行。
*120,000：入金元の記載なし。 *「割」……この字は「毛布」と「弁当」の間に記されている。

十月三十日(日) 曇 寒
朝水富来

九時黒田を訪後西村を訪 近所散歩
午後二時沢田、川上 江見 岡田、丸岡、石橋
武内ら来 柳浪も亦 共に 紅葉墓参
後 溜池三河屋にて會飲 九時帰 途に
松下にて三四の頭巾求

【出】 三河屋會費約 4,000
【注】*紅葉墓参：十月三十日は尾崎紅葉の命日（一周忌）。墓所は青山霊園。

十月三十一日(月) 晴 寒

九時出勤 福田来
午後三時 石橋が丹後町の新居により帰る
夜鈴木善太郎来訪 身の上話、阿部来早稲田罷免のよし
生田来

【出】 高階立替 10,000

生田同 9,000
福田同 7,000

十一月一日(火) 晴

九時出勤 日露戦史第六艸初
四時帰途 竹貫、木村二氏と小川町常磐
食事 六時角田氏方秋聲會
に赴く 九時帰途父上を訪ひ

【入】 持越 30,000
【出】 活東入婚祝割 2,000

秋聲會 1,75
常磐

【注】*日露戦史第六：『少年日露戦史第六編（摩天嶺の巻）』は、明治三十七年十一月、博文館より刊行された。 *活東入婚祝割：金額の記載なし。次の「秋聲會」の「2,000」に含まれるか。

十一月二日(水) 晴

九時電車にて出勤

日露戦史艸ス

午後五時 濱町岡田に赴く

氏の招待 石橋及岩崎同席

遊朝落語、益田氏ハイカラ朗読 十一時後

帰

【注】 *益田孝：実業家、三井物産創始者（一八四八～一九三八）。 *益田

太郎：劇作家の益田太郎冠者（一八七五～一九五三）。太郎は本名。

*遊朝：三遊亭遊朝。経歴未詳。 *益田氏ハイカラ朗読：益田太郎

冠者の戯曲「高襟（ハイカラ）」は、この年十二月、本郷座で高田実
一座により上演された。

十一月三日(木) 快晴

終日在宿

早朝西彦夫人来

八時柳原伯 次で長松氏来 観兵

式を二階より見る 久留島妻来 春生、冬生

午後一時より木曜會 囲碁 俳句角力

又年峰氏写真 五時半散

夜一寸散歩

午後廣瀬洋服店を招き三二外套注文

十一月四日(金) 晴

朝九時出勤 日露戦史第六冊 西彦よりシヨール求

四時電車にて帰る

夜 画葉

〔出〕シヨール 2、75

十一月五日(土) 晴

朝九時半 信濃町發向青梅 同行中沢、岡野

太田、筒井及春生、立川に一時半
休 画葉など それより福生にて四丁氏
に會し車中食事 小作にて大下氏
に會 多摩河原写生 夜例の
塚上に投 画葉會 琴月、寛水、田代
など来る

【注】 *十一月五日：この日の原文（コピー）は特に字が薄く、判読困難。

十一月六日(日) 晴風 朝時雨 寒

朝九時二十分 青梅發 拝島に赴き河原
写生

四時後同所發帰京

〔出〕青梅行費 7、80

十一月七日(月) 晴

九時出勤

午後四時帰途 訪元園町夕食

夜北村氏けいこ

十一月八日(火) 晴

九時出勤 日露歴天嶺の巻脱稿

五時 學士會の *教育研究會に赴く
會食

〔出〕教育研究會 1、000

【注】 *の…この「の」は削除か。

十一月九日(水) 晴

九時出勤

午後三時帰

夕方木沢氏来

夜北村氏けいこ

十一月十日(木) 晴

朝 北村氏けいこ、後早稲田出勤

午後四時帰

夜 木曜會 画葉 霜

(出) 北村 2,000

月謝二回分

十一月十一日(金) 晴

九時出勤

午後三時 佐々木氏竹柏會に赴く 講話、後

晚餐ヒ餐 小原氏二會 帰途北村

氏打合會、十時帰

(入) 日露第六、半 50,000

(出) 勇へ 30,000

十一月十二日(土) 晴

朝鈴木善太郎來 萬朝松居、朝日三沢、紹介

十時出勤 途に田村帽子

午後二時半 訪桂舟 四時訪廬不在 五時

紅葉館に赴き紅葉祭の件打合 別席

岡田、中村進午、仁井田、及飯田など

九時後帰

(出) 帽子 5,000

【注】*帽子…この文字の下、次行の「四時」の右に二文字(?)見えるが判読できず。あるいは「三」か。*中村進午…国際法学者(一八七〇~一九三九)。*仁井田…法学者の仁井田益太郎(一八六八~一九四五)か。

十一月十三日(日) 晴

朝千葉 次で永富

日下部かず、鈴木、村瀬三嬢來 校友會の礼

後 女子大学生 江守しづ江、生駒二女來

【一行あき】

午後一寸父上を訪(不例) 後北村氏

超然會、山姥シテ

帰途一寸父上により 帰宅

武内氏來 十時後去る

(出) 北村氏 5,000

十一月十四日(月) 晴

九時出勤 女學艸

午後四時 電車にて南品川萬松軒白人會

に向ふ(途に窪田留守宅を訪ふ) 勝本博士

居合す 九時帰宅(電車)

(出) 白人會 1,800

十一月十五日(火) 曇時々雨 寒

九時後出勤 午後編輯會議

午後四時帰 夜鈴木來吉水に紹介

夜 為文藝執筆

十一月十六日(水) 晴

朝九時出勤 編輯會議 遂に四時半迄

後石橋氏と共に真砂座に赴かんとし途に

菊水食事 遂に真砂座行を廢し帰途

につく 赤坂地藏縁日散歩

(出) 菊水 2,350

【注】*赤坂地藏縁日…浄土寺(赤坂一ツ木町)の縁日(毎六日)。

十一月十七日(木) 晴

午前 藤沢氏夫人來 對桂舟の件

午後桂舟により二時より早稲田 四時帰

夜木曜會創作朗読

十一月十八日(金) 晴

朝九時出勤

午後四時帰

三時慶応義塾幼稚舎同窓會に赴き

口演「少年園不老水」 五時帰

夜 藤沢 竹内恵太郎(親戚)同道来

桂舟縁談の件

十一月十九日(土) 晴

朝年峰来

九時後大橋氏夫人を訪ふ それより坪井博士弔慰に赴く

十二時前出勤

一時半赴婦人教育會「婦人の耳」留岡氏同演

四時帰 木村、竹貫来 夕食

夜 中沢氏来 少年さし画の件

十一月二十日(日) 晴

朝 湯地代津田来 北里来訪

午前廬来食事

午後三時 廬と原宿より新宿へ散歩 元園町

に赴く 食後囲碁など 九時帰

十一月二十一日(月) 晴

九時出勤

午後四時帰 食後新橋停車場に新任有松

三重知事を見送る 直に帰

夜生田来談

【注】*新任有松三重知事：有松英義(一八六三—一九二七)。小波とは獨逸学協会学校の同窓。明治三十七年十一月より三重県知事。

十一月二十二日(火) 晴

出勤

*世伽第六十五冊

三時後桂舟により 後元園町 辻、永田氏居合

食後 北村氏 其間一寸鳥谷部

を訪ふ

【出】鈴木善太郎 5,00

【注】*世伽第六十五冊：『森の女(世界お伽噺第六十五編)』は明治三十七年(刊行月未詳)、博文館より刊行。

十一月二十三日(水) 晴

【新嘗祭】

朝西村象蔵(早稲生)来 辻氏来

十一時廬、斎藤二氏に誘はれ歩いて目黒ビーヤ

會社 伯林會に赴く 會者二十名斗

三時停車場に赴く 汽車不來即ち車にて

三田に出で更に電車 神田 淡路女学校

に赴き筆友 會講演

六時 青年會館 樗牛會講演

大町、笹川、佐々、及余(詩的少年文学)

十時後帰

【出】伯林會 1,70

車代 30

【注】*歩いて：「して」の二文字は字が薄く、判読困難。*筆友 會：「筆友」と「會」の間に約一文字分の空白がある。翌日の十一月二十四日でも「木曜 會」と同様の空白が見られることから、「筆友會」と続くものと見られるが、一応原文のままとした。*「後」：通常記されている「後」の字と異なり、画数の多い字体になっている。別字の可能性もある。

十一月二十四日(木) 晴

朝下読 近角来

十二時 登校 四時帰

夜木曜 會

【注】*木曜 會：前日の十一月二十三日、「筆友 會」と同様、約一文字分の空白がある。原文のままとした。

十一月二十五日(金) 陰晴 寒

九時出勤

午後四時帰宅 元園町又日下部氏を訪

食後北村けいこ 天神散歩 帰

十一月二十六日(土) 雨后天晴

九時出勤

午後 一時五十分發向横濱 車中入沢、浅田繁太郎(送)

及 嘉納氏などに會す 三時蓬萊町會堂

お伽くらぶに赴き直に口演(不老水) 四時後

平沼停車場より乗車々中長田に會す

五時後 大森着汐見館に箕作氏を訪ふ

木村氏已に在り 夕食ヒ饗 後史談を聞き

電車にて帰京 九時

(入) お伽 2,000

(出) 海空 2,000

車其他 1,000

【注】*平沼停車場：当時の横浜駅が東海道本線の直通列車には不便であったため、横浜市平沼町に明治三十四年に設けられた駅。*箕作氏：

西洋史学者の箕作元八(一八六二—一九一九)か。*海空：文字は

「海空」と読めるが、意味は不明。

十一月二十七日(日) 晴

*永富来

午前 尾花来 又芹沢来

午後 長松、日下部、野口歴訪

五時帰 辻氏 宮部氏を伴ひ来

夜藤沢、竹内来

【注】*永富来：欄外に記されている。

十一月二十八日(月) 晴

九時出勤

伊井来館紅葉祭の件

午後 四時帰途訪桂舟不在 元園町に赴き食事
後再訪桂舟不在 北村けいこ 九時帰

十一月二十九日(火) 曇

朝九時出勤

午後三時後桂舟を訪ふ 岡田居合 五時帰

夜黒田来

(入) 太陽女、文 * 120,000

(出) 勇へ 120,000

弁当 2,200

【注】*120,000：入金元の記載なし。

十一月三十日(水) 曇午後雨

朝九時出勤 白蛇の聲艸

五時帰

夜 藤沢妻竹内、桂舟来 後藤沢来

例の談 や、面倒 十二時去る

十二月一日(木) 陰晴

*津田来

早稻田欠勤 本町出勤 日露戦史起艸

五時帰
夜木曜會

〔入〕 * 18,000

〔注〕 * 朝 津田来：欄外に記されている。 * 18,000：入金元の記載なし。

十二月二日（金） 雨午後晴

九時出勤 其前年峰来

はがき

午後三時 日本橋俱樂部書畫會二赴く 米貞、
清方、清忠、清潭、鹿塩秋菊、文祿ら

九時半帰

〔出〕 書畫會 1,500

〔注〕 * はがき：左行の「書畫」に添えるように、行間に記されている。

* 清方：日本画家の錦木清方（一八七八〜一九七二）か。ただし、「清」の文字は、同じ行の「清忠」「清潭」の「清」とは異なっている。あるいは「年」という字に重ね書きしたか。 * 清忠：浮世絵師の鳥居清忠（四世、一八七五〜一九四二）か。 * 清潭：歌舞伎研究家の川尻清潭（一八七六〜一九五四）か。 * 鹿塩秋菊：雑誌「歌舞伎新報」等の編集者（生没年未詳）。

十二月三日（土） 晴

朝廬により 五番町加藤氏 皇孫殿下御写真借入

十一時出勤

午後 四時斬髪 後 紅葉館 紅葉祭の件

石橋、岡田同席 又 加藤 廬後より

九時帰

十二月四日（日） 晴

* 小島沖舟来

朝来客 渡邊修二郎来

江守来

牧野来 関謙之来

又 徳富氏紹介 小松砲兵曹長来 雅帖に書

午後 酒居留次郎来 先日のお礼

一時後 本郷教會に赴く 東京婦人會講演

姉崎、内ヶ崎及余（對面金策）

小石川杉浦氏へ勅語幅及金二円寄付

夜 竹内来例の件

又西村来

〔出〕 稱好塾 2,000

〔注〕 * 小島沖舟来：欄外に記されている。小島沖舟は画家（生没年未詳）。

春蘭道人・秋菊道人編『当世画家評判記』（文祿堂、明治三十六年）には、「番町の桂社中の俊才だ、未だ歳も若い人です」と紹介されている。 * 渡邊修二郎：歴史家・評論家（一八五五〜没年未詳）。本名は修次郎。 * 関謙之：新聞記者（一八五四〜一九〇七）。 * 杉浦氏：猪狩史山「杉浦重剛先生小伝」（日本中学校同窓會出版部、昭和四年）によれば、杉浦重剛は明治三十五年から四十二年の八年間、「神経衰弱」に苦しみ、「病気が長いので、貧苦も骨に徹するやうな有様」であった。このころ、頭山満から「見舞金五百円」が寄せられ、「先生も之が為め大いに助かつた」という。

十二月五日（月） 晴

九時出勤

午後四時 帰途加藤に會、後帝國教育會内

言文一致會に赴 會後坪井、後藤、桜井

井口、千田氏らと 日盛軒食事

夜桂舟を訪不在 元園町により十時帰

〔出〕 辻氏へ礼 5,000

* 日進軒 1,500

日進軒 2,000

〔注〕 * 日進軒：本文四行目「日盛軒」の出費記録と思われるが、二文字目は「盛」ではなく「進」と読める。また、金額は「55」「20」

と分割し、括弧でくくられている。なお、「55」の部分は、先に「65」「6」は汚れのため判然としないが」と記し、後で「5」と訂正されている(ただし、「5」の文字には、丸く線が上書きされているように見える)。

十二月六日(火) 晴

朝生田来 北海柿屋旭原稿林氏へ送る

九時後出勤 日露戦史艸了

午後四時後帰

夜 手紙雑誌桑田来 新年葉書貸

二六社より俳句選料

〔入〕二六社 30,000*

本郷教會 2,000

〔出〕勇へ 15,000

勇へ 2,000

生田へ柿屋旭 10,000

【注】*日露戦史艸了：明治三十七年十二月刊行の『少年日露戦史第七編(大石橋の巻)』を脱稿したか。*30,000…この数字(原文は横書き)の上に、一本の横線が見える。

十二月七日(水) 晴

朝 九時出勤

午後四時帰

夜鈴木来 又 土屋詮教来

三一 發熱咳多し

【注】*土屋詮教：仏教学者(一八七二—一九五六)。

十二月八日(木) 晴

午前在宿

午後 早稲田出勤 四時帰

夜木曜會画葉新年の山

十二月九日(金) 晴風

朝桂舟来

九時後元園町 母上又と瘧起 十時後出勤

午後二時帰

夕方杵屋寅一來 太田来

又 竹内来 信州より帰来 好都合のよし

十二月十日(土) 雨

九時出勤

午後四時帰 入浴

夜 仙臺人 鹿又(農科大学生) 来談

【注】*仙臺人：「仙」の字は文字の重なりがあり判読困難。

十二月十一日(日) 晴

朝小島沖舟、世伽注文原書貸

永富女史来

辻氏来食事

一時 北村氏超然會、余 東北ワキ、蟬丸ワキ

他 朝長、和布刈、及舟弁慶、(但し老師

昨夜急に佐世保行) 帰途元園

町により又一寸兄上に招かる、春生縁談

の件

〔入〕中央公論 13,500

〔出〕北村 500

【注】*画：「世伽注文」に添えて、右欄外に記されている。*「件」：この字の最後の二画(「牛」の縦の棒)は、下方向に長く伸ばしている。

十二月十二日(月) 曇夜雨

九時出勤

午後四時 春生を役所に訪ひ 来車を約し帰る
夜春生来 縁談の件 一泊

植物御苑 宮川氏来

【注】*植物御苑：現在の新宿御苑。当時は宮内省管轄で、洋式の宮廷庭園に改造中であつた。

十二月十三日(火) 雨 夜寛*

十時出勤

帰途五時 教育研究會(一橋)に赴き八時帰

〔入〕大石橋 50,50

〔出〕教育研究會 *、80

勇へ 25,00

【注】*寛：この文字、判読困難。形は「寛」に似ているが、意味は「あられ」か。*大石橋：「少年日露戦史第七編(大石橋の巻)」(十二月六日の注参照)。*、80：「0」の字は汚れのため判読困難。

十二月十四日(水) 雪

九時出勤 *世伽第六十六艸

四時帰

【注】*世伽第六十六艸：『日の罫(世界お伽噺第六十六編)』は明治三十八年一月、博文館より刊行。

十二月十五日(木) 雨

午前在宿

十一時後より早稲田登校 *三時帰途武内により帰

夕方藤沢、竹内及 大脇菜 例の件

三行題を出す

夜木曜會

【注】*三時：「三」の字は、横の線が四本あるように見える。*三行題：意味不明。あるいは「行」と読んだ文字は別字か。

十二月十六日(金) 朝雨 午後晴

欠勤 午前 黒田来

正午より紅葉館行 紅葉祭 余ら幹旋

會者 *百三十名 勇後より

余開會辞 弱法師(觀世) 松竹梅(佐藤) 勸進帳

(文祿) 熊野(館妓) 及 夏小袖(伊井一座)

八時散 後發企人ら會飲 十時帰

〔出〕黒田へ貸 10,00

【注】*百三十名：原文では、「百」と「三」の間隔が開いている。

十二月十七日(土) 晴

九時出勤

午後四時前 西彦に赴き 羽織裏地求 食ヒ饗

後 武内により 共大橋氏に赴く 例の件

夫人と鳩首相談の上 余より強硬書簡を送る

十時帰 入浴 に決す

〔出〕武内へ表具代 4,00

十二月十八日(日) 晴

朝来訪 加藤、永迫、歌川国峯、西岡英

及森一兵

森 食後去

二時 元園町による 加藤へ祝品 三時後

愛宕山東京ホテルへ赴く 独和會クリスマス

夜五時半紅葉館 加藤と會飲

〔出〕独和會 九時帰 1,50

十二月十九日(月) 晴

九時電車出勤 堀江電話今夕帰西

午後四時 一寸言文一致會により それより元園町

による 此間大橋夫人と電話 藤沢つる女同家へ行きし由
食後 辻氏に赴く 永田氏居合 家督云々の件

八時後歩帰
〔出〕西彦拂 紋付 16,50

十二月二十日(火) 晴

九時出勤 途に大橋及武内による 例の件
午後 四時後帰る 鈴木善太郎来
夜 柳原氏来 小田切房子の件 断念に決ス

十二月二十一日(水) 晴

九時出勤
今晁博進社工場焼失 少年新諸雜誌皆損
害 直に秀英社によって印刷
午後博進社見舞 帰途番町大橋
夫人に會し例の件 四時半帰
森御□□
木村氏来合 食後去る

十二月二十二日(木) 雨晴

九時出勤
午後四時帰
夜木曜會々者五名のみ

十二月二十三日(金) 晴

午前 市川葬及衣装方来
十一時出勤
午後三時後 秀英舎校正に赴く 食後
八時半帰
西彦より羽織衣服出来
〔入〕北海道 林 柿屋 20,00

〔出〕勇へ 20,00

十二月二十四日(土) 晴

午前九時後 秀英舎により 十二時出勤
午後四時 電、帰途 元園町により
食後九時帰

〔入〕早稲田 30,00

〔出〕西彦拂 15,10
勇へ 25,00

十二月二十五日(日) 晴

午前生田来 十時より一寸秀英舎校正二赴く
正午帰
午後二時半 三一、銀次郎及大岡竜男と番町教
會クリスマスに赴く(余口演)
後六時竜男と宝亭食事 去て三田ユニテリアン
教會に赴く 神田氏依頼 口演、黒岩氏に會
十一時帰 三並
〔出〕夕食 1,60

十二月二十六日(月) 晴

午前 秀英舎校正物に赴く、十一時斬髪 本町出勤
午後四時帰途買物 シヤツ上下、寿□嘉 又秀英舎により帰る
夜俳句選 □帽子、其他

〔入〕東儀よりヘルマン校正料 30,50

〔出〕二葉幼稚園クリスマス 1,00
買物 15,00

【注】*ヘルマン：「へるまんどろてあ」(独逸語学雜誌社、明治三十八年一月)であろう。表紙には「げいて作 小笠原昌齊訳述」「巖谷小波 山口小太郎共闘」とある。「発行兼編輯者」は東儀季治。訳者の「ことわり」には、「山口大人の当否を積みし給ひしうへに、小波大人の筆を

加へられたるさへあれば、此道の初学者が原書研究の乗にもならんかと」云々とある。

十二月二十七日(火) 晴

午前九時後出勤
午後二時 加藤氏へ皇孫殿下写真返 元園町
に赴く 此間武内氏来訪 木沢托の勅語代持参
四時皆香園 白人會々者十一名

九時半散

〔入〕太、女、文 78,000

〔出〕白人會 1,300

丸善 3,600

十二月二十八日(水) 晴

九時出勤 日露戦史第八本文舛了
午後五時 青年會館給仕歓迎クリスマスに赴く
江原翁及余口演(木の傀) 八時帰
勇子朝より不快 三四も亦

〔入〕中学 13,000

〔出〕高階 15,000

弁当代の中 2,650

本□へ筆記代 □,000

十二月二十九日(木) 晴

〔三行あき〕

九時出勤 途北村氏歳暮、加藤による

午後三時桂舟により 四時帰

夜木曜會 蕎麦、初笑

〔入〕燈 120,000

歳暮 250,000

画報 10,000

日報俳句 3,000
〔出〕北村 1,000
勇へ 350,000

十二月三十日(金) 晴

午前 三一と齒療治
午後 木村氏来 年始葉書認 廬来
木村夕食後去
夜 中沢、岡野来

〔入〕中央俳句選 10,000

〔注〕*療：初め「料」と記して消し、右欄外に「療」と訂している。

十二月三十一日(土) 晴

午前在宿、三越洋服店初山来 歳暮反物
午後 土屋香葉来
齒療治後元園町により 四時博文館ニ
より 田村、白牡丹買物
六時 新橋に加藤新婦を携へ門司へ
赴任を送る、壺屋食事、六時帰

〔出〕白牡丹 4,100

帽子 4,250

つばや 82

齒 1,600

———【明治三十七年末尾】———